

陸1章

問題提起編

課題の設定

プラごみ、全部リサイクルされていると思っていない？



想像できる？1年間のごみの量

神奈川県では、1年間に約260万tものごみが出されています。しかし、この数値ではどのくらいの量なのか想像しにくいかもしれません。そのようなときは、例えば「ごみ袋にすると何袋分だろう」と考えると、身近に感じられるのではないのでしょうか。実際に計算してみると、意外な量に驚くかもしれません。それでは、皆さんの住んでいる市町村や学校がある地域ではどうでしょうか。地域のごみの排出量を身近な単位に置き換えて考えることで、自分の生活と社会全体のつながりを知る最初の一步にしてみましょう。



▲出典：茅ヶ崎市 環境部 資源循環課 資源環境担当、「ごみの減量にご理解ご協力いただきありがとうございます!!」ごみ有料化に伴うごみ排出量の変化。
<https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankyō/1042977/1048232.html>, (2025.10).

ごみの総排出量(単位:t) (図1)

令和5年度	令和4年度	増減
2,596,102	2,694,614	△98,512 (△3.7%)

▲出典：神奈川県環境政策局 環境部資源循環推進課、「県内のごみの総排出量等の状況」神奈川県一般廃棄物処理事業の概要。
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/p3k/cnt/f6821/index.html>, (2025.10).

▶ ワークシート タスク 01

【個別最適な学び】へのアプローチ

神奈川県の市町村別の人口・世帯数から自分の住んでいる地域のごみの量を知ろう

▼行政区域名・人口・世帯数一覧表(p.29)

▶ **ここをクリック!**

または p.10 の一覧表を参照

再利用できないと？ごみの行き着く先

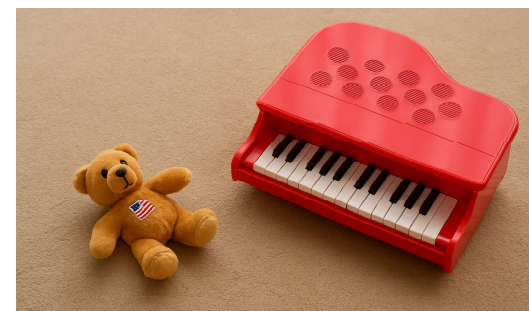
家庭や学校から出たごみは収集車で集められます。集められたごみは種類によっては資源として再利用されますが、そうでないものは焼却や破砕といった処理を経て、最終処分場に埋め立てられます。技術の進展やリサイクルの工夫によって最終処分場の残余年数は延びつつある一方で、容量には限界があるのもまた事実です。

▼焼却施設に運びこまれたごみが集まるごみピット



▲撮影協力：はだのクリーンセンター

ここで特に注目したいのがプラスチックごみです。プラスチックは便利な素材である反面、種類が多く、汚れや混ざり物があるとリサイクルが難しいという処理上の課題があります。そのため、大量に出されるわりには資源として再び活かされにくい場合があります。ごみの流れやプラスチックごみの処理の難しさを理解することで、私たちの行動を見つめ直すきっかけにしましょう。



▲混合素材のおもちゃの例

▶ ワークシート タスク 02

暮らしと結びつけられる？3R+Renewableの視点

プラスチックごみの問題を考えるときに欠かせない視点が「3R」です。3Rとは、「Reduce(へらす)」「Reuse(くり返し使う)」「Recycle(再生して使う)」のことを指します。さらに近年では、「Renewable(再生可能素材への転換)」が加わり、植物由来のバイオマスプラスチックなどが注目されています。「3R+Renewable」は、国や自治体の環境施策だけでなく、企業の製品開発や市民のライフスタイルにも広がりを見せています。例えば、洗剤の詰め替え用商品の普及や、レンタルシステム・シェアリングシステムの拡大なども、この考え方を活かした実践といえるでしょう。

▶ ワークシート タスク 03-04

参考動画

バイオマスプラスチックとは何か？

▶ **ここをクリック!** または p.09 の一覧表を参照

KAELOOP (カエループ)

海洋生分解性バイオマスプラスチック素材100%使用



KAELOOPは、酢酸とセルロースを反応させてつくられた「酢酸セルロース樹脂」という海洋生分解性バイオマスプラスチック素材100%でできています。そのため、海などにいる微生物の酵素によって分解され、最終的には水と二酸化炭素へと自然に還元されます。

▲画像提供：アサヒコウアス株式会社、「KAELOOP」。(2025).
 ※温度、湿度、微生物の影響、成形品の形態(構成やサイズ、厚みなど)や自然環境(微生物、温度、海水など)で生分解スピードは大きく異なります。